

温室効果ガスの排出抑制

オフィス電力使用量などのグループ環境目標を設定し、省エネ活動、省エネ機器の導入及びエコドライブ等をグループ一体となって推進しています。

2012年度は、電力使用量や工業用燃料の使用量は減少しましたが、原子力発電所の停止に伴い、火力発電所での発電が大幅に増加したことから、電力のCO₂排出係数が高くなり、結果としてCO₂の排出量が増加しました。また、設備の経年劣化によるHFCの増加などに伴い、CO₂以外の温室効果ガスの排出量も増加しました。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報 (P2参照) >
温室効果ガスの排出量の詳細実績 (グループ会社)

用語集を
ご覧ください

- 地球環境問題
- 温室効果ガス
- エコドライブ
- HFC
(ハイドロフルオロカーボン)
- CH₄ (メタン)
- N₂O
(一酸化二窒素)
- PFC
(パーフルオロカーボン)
- SF₆
(六フッ化硫黄)
- 天然ガス
- LNG
(液化天然ガス)
- LPG
(液化石油ガス)

温室効果ガス排出量

単位：千トン-CO₂

	2010年度	2011年度	2012年度
CO ₂ (二酸化炭素)*	119.5	113.9	134.8
CH ₄ (メタン)*	0.1	0.5	0.1
N ₂ O (一酸化二窒素)*	0.0	0.0	0.0
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	18.0	15.9	36.0
PFC (パーフルオロカーボン)	—	—	—
SF ₆ (六フッ化硫黄)	0.0	—	0.0
合計	137.5	130.3	170.9

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがある。

※：電力会社等への販売電力量分 (発電用燃料の燃焼に伴う排出量) を除く。

各種エネルギー使用量

		単位	2010年度		2011年度		2012年度		
			会社数	使用量	会社数	使用量	会社数	使用量	
電力	オフィス	百万kWh	42	29.6	41	25.9	41	24.0	
	工場等	百万kWh	33	213.4	33	198.3	33	182.8	
燃料	車両等	ガソリン等	千ℓ	44	6.6	43	6.6	44	6.6
		天然ガス	千m ³	1	0.3	1	0.1	—	—
	冷暖房用	千ℓ	9	0.1	9	0.1	8	0.1	
	工業用*	A重油等	千ℓ	12	1.8	13	1.6	12	1.3
		LNG、LPG	千トン	7	1.8	7	1.4	7	1.3
熱	蒸気等	百万MJ	3	45.7	3	34.7	3	33.2	

※：電力会社等への販売電力量分 (発電用燃料) を除く。

グループ会社からの声

「エコ事業所コンテスト」にて最優秀賞を受賞しました 九州メンテナンス(株)

2012年12月、福岡県地球温暖化防止活動推進センター主催の「チームで節電! エコ事業所コンテスト(一般事務所部門)」において、九州メンテナンス(株)の営業統括事業所が最優秀賞を受賞しました。

照明の間引き、小まめな消灯、空調温度の設定等の実施により、2010年度比で38%、2011年度比でも14%の削減に成功しました。メンバー全員で知恵を出し合っ^{つな}いで実行したことが節電への意識改革に繋がったことや、「従業員は自動ドアを使用せず、通用口(手動)から出入りする」取組みが、ユニークで有効な

対策であるとして、評価されました。

現在も継続して節電への取り組みを行っています。



事業所でエコトンを囲んで

グループ会社からの声

LED照明の導入

西技工業(株)

西技工業(株)は、これまででも省エネについて様々な取り組みを行ってききましたが、特に2011年度以降は、照明の間引き、省エネ型機器への更新、ノー残業の実施など、全従業員一丸となった省エネ活動を展開してきました。その成果として、年間使用電力量は2010年度を100とした場合、2011年度が88、2012年度は79と着実に効果が現れてきました。

2012年度は、更なる節電を進めるため、全15事業所の照明をLEDに交換しました。LED化により従来の蛍光灯に比べ約30%の電力使用量削減が見込めることから、2013年度は全体で約7%の削減効果を見込

んでいます。

今後も省エネ活動をはじめとして、全従業員一丸となり地球環境問題への取組みに貢献したいと思います。



LED照明導入後の事務所の様子

こんな事業やっています～エネルギー関連事業～

再生可能エネルギーの積極的な開発・導入 グループ各社21社

国産エネルギーの有効活用の観点から、また、地球温暖化対策面で優れた電源であることから、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入を進めています。

グループ各社のうち15社が風力・太陽光・バイオマス発電などの再生可能エネルギーの設備を導入しており、また、再生可能エネルギー設備の工事施工や設計業務に関わるグループ会社を含めると、延べ21社が設備導入や開発に携わっています。

〔設備導入状況〕

項目	会社数	総設備容量
風力発電	3社 ^{※1}	64,390kW ^{※1}
太陽光発電	10社	18,209kW
バイオマス発電	1社 ^{※1}	11,350kW ^{※1}
廃棄物発電	1社	29,200kW
合計	15社	123,149kW



みやざきバイオマスリサイクル(株)
みやざきバイオマスリサイクル発電所

〔設備導入・開発に取り組む会社(青文字は設備導入会社)〕

風力発電(7社)^{※1}

- 西日本プラント工業(株)
 - 尾尾岳風力発電(株)
 - 電美大島風力発電(株)
- 西日本技術開発(株)
- (株)九電工
- 長島ウインドヒル(株)
- 串間ウインドヒル(株)

太陽光発電(14社)^{※1}

- 西日本プラント工業(株)
 - 宗像アスティ太陽光発電(株)
- 西技工業(株)
 - (株)九電工
 - 九電テクノシステムズ(株)
 - 光洋電器工業(株)^{※2}
 - (株)キューヘン^{※2}
- 誠新産業(株)
- 西日本環境エネルギー(株)
 - (株)キューデン・エコソル
 - ニシム電子工業(株)^{※2}
 - (株)電気ビル
 - (株)キューデン・グッドライフ東福岡
 - 九電不動産(株)^{※2}

廃棄物発電(1社)

- (株)福岡グリーンエナジー

水力発電(2社)

- 西日本技術開発(株)
- 西技工業(株)

地熱発電(1社)

- 西日本環境エネルギー(株)



長島ウインドヒル(株)長島風力発電所

※1:グループ会社の子会社を含む。

※2:九州電力の研究設備として、グループ各社に設置。

バイオマス発電(2社)^{※1}

- 西日本環境エネルギー(株)
 - みやざきバイオマスリサイクル(株)

おおむら

大村メガソーラー発電所の運転開始について

(株)キューデン・エコソル

(株)キューデン・エコソルは2013年5月に、九州電力の大村発電所跡地(長崎県大村市)において大村メガソーラー発電所の運転を開始しました。

大村メガソーラー発電所は、第1発電所(出力3,000kW)及び第2発電所(出力10,500kW)の2つの発電所から構成されており、総発電規模は13,500kWと長崎県内で最大、国内でも有数の規模となります。発電所の運転により、年間約8,000トンのCO₂排出抑制につながると試算しています。また、2013年5月に佐世保メガソーラー発電所(出力10,000kW)の建設を開始し、8月に宗像メガソーラー発電所(出力1,779kW)の建設を開始する予定です。

今後も、地球環境にやさしい再生可能エネルギーの推進に寄与していきたいと考えます。



大村メガソーラー発電所



大村メガソーラー発電所	
所在地	長崎県大村市
敷地面積	約20万㎡
出力	13,500kW
運転開始時期	2013年3月: 3,000kW 2013年5月: 10,500kW

オゾン層の保護

オゾン層を破壊するフロン類の回収を徹底するため、グループ環境目標を設定し、フロン類の排出抑制にグループ体となって取り組んでいます。

2012年度は、HCFCやハロンを使用しない設備への更新により、HCFC等の保有量は減少しました。

オゾン層破壊物質保有量等

単位:トン

		2010年度		2011年度		2012年度	
		会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
CFC	保有量	4	17.5	4	17.5	4	16.7
	排出量		—		—		0.7
HCFC	保有量	26	53.5	25	53.1	24	52.4
	排出量		1.9		—		0.0
ハロン	保有量	6	12.3	6	9.4	6	7.0
	排出量		0.4		—		—

単位: ODPトン

オゾン層破壊物質排出量*	3.7	0.0	0.2
--------------	-----	-----	-----

※:各フロン類のオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。

用語集をご覧ください

- 再生可能エネルギー
- 地球温暖化
- バイオマス
- メガソーラー
- オゾン層
- フロン
- HCFC (ハイドロクロロフルオロカーボン)
- ハロン
- オゾン層破壊物質
- CFC (クロロフルオロカーボン)
- オゾン層破壊係数
- CFC-11 (トリクロロフルオロメタン)